



衣川 実介

『往馬 (いこま) 大社の火祭り』

弊社ホームページ『むらの鍛冶屋』にアップしている「夢通信」(2008年2月号)『鑄物師町』を見られた方から2015年11月メールが届きました。私は往馬大社(奈良県生駒市)の近くに住む者です。記事の中に、藤原弁隋(ふじわらべんずい)さんについて書かれております。私は、これまで弁隋さんを調べてきましたが、明快な答えはありませんでした。もし、正しい情報をお持ちでしたらご連絡頂けないでしょうか。

往馬大社では10月上旬に有名な『火祭り』が行われ、祭りに「弁隋」さんが、4 x 2人、合計8人登場しユニークな「弁隋(べんずり)踊り」を奉納します。姫路には弁隋さんに関する資料等がありますか？

メールと添付された資料(弁隋さんのお渡りに随行して)を頂いてから、すでに3年が経過しました。昨年「しかまのかちん染め」姫路美術工芸館の資料を入手して、弁隋さんの褐衣(かちえ)が、その「しかまのかちん染め」であると妄想し、今回の記事を書いています。

売場の権利を芥田五郎右衛門へ販売、天文7年(1538)した鑄物師の統領、藤原弁隋は出身地である大和、往馬に息子、千千代と配下の数人と一緒に故郷へ帰りました。産土神の往馬大社(火の神を祀る)で大規模な改築工事があり信心深い鑄物師達は大枚を奉納しました。こんなことから往馬大社の火祭りでは祭り全体を差配するのが、それぞれ生駒谷を南北に分けて4人ずつのべんずり(弁随)です。弁隋は神職よりも強い権限を持ち、機嫌を損ねると祭りはできないといいます。

弁隋さん達は10月の祭りの日、早朝より高良社(こうらしゃ: 往馬大社の摂社)に4名、9時ちょうど、筆頭弁隋さんを先頭に階段を上がってこられた。筆頭弁隋、二等弁隋、三等弁隋、四等弁隋の4人で褐衣は紺地で背に白抜きの菊紋が入り、太刀の色は黒である。冠は筆頭(一頭)弁隋が垂纓(すいえいの)冠(かんむり)、他の三人は巻纓(かんえいの)冠を被っておられる。

二つ目の摂社、春日社別院に到着すでに1時間半が経過している。褐衣が白地で、背に藤紋を黒く染め抜いた4人の弁隋さんが赤い漆塗りの太刀を身につけ、前者同様に冠(かんむり)を被り出迎えて下さった。ここでも酒席、一升瓶がごろり。

往馬大社に向かう紺・白、合計8人の弁隋さんが、着いたのは12時を過ぎていました。本祭りは午後3時頃から、神輿はべんずりに先導され勢いよく担ぎ込まれ、そのまま一気に高座の中に納められる。その後べんずりの舞が終わると、いよいよ最大の呼び物の火取りとなる。

参考資料

弁隋(べんずり)さんのお渡りに随行して 中西明宏 平成27年10月21日
 往馬大社ホームページ <http://www.ikomataisha.com/>
 姫路美術工芸館紀要1 姫路市書写の里・美術工芸館 平成12年2月



往馬大社の火祭り



往馬大社の火祭り



こっけいな弁隋踊



春日社別院にて

ぜひ、一度
見たいものです